

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	堺シティオペラ一般社団法人
公演団体名	堺シティオペラ一般社団法人

内容
<p>[申請当初はワークショップを①合唱指導と②道具制作の2グループに分けて行う予定でしたが、②道具制作ではハサミやカッターなどを使い回し、また講師が生徒の手に触れる機会が多いです。その為にワークショップを①合唱指導のみとします。ワークショップ実行の際には生徒はマスクの着用のまま歌とダンスを学習します。また、体育館などの広い会場で行い、参加生徒の感覚を十分に取り、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めます。ワークショップ最後の15分程にオペラ制作に関するパワーポイントや動画を使ったレクチャーを行い、道具制作を始めオペラ制作に関わる多彩な業務の紹介を追加する予定にしております。]</p> <p>合唱指導:3幕に登場する子ども合唱シーンでの歌唱指導と演技指導。魔法が解けて目覚める喜びを伝える為に歌と演技による表現力を養う。また、人前に於いて、どれだけ自信を持ってプレゼンテーションを行うための所作を指導します。 道具製作:お菓子の家などの舞台道具の製作を通して、創造力を養う。また、人の目には触れない所にも公演をする上で欠かせない職業があることを理解してもらい「キャリア教育」としての狙いも持っている。</p>

タイムスケジュール (標準)
[標準 90分のワークショップの場合] 13:00-13:15 挨拶、団体紹介、講師紹介 13:15-13:30 発声練習 13:30-14:00 歌唱・ダンス練習 14:00-14:15 オペラ制作に関するレクチャー 14:15-14:25 質問コーナー 14:25-14:30 挨拶

派遣者数
4人 [申請時は2グループに分けるために6人の講師を予定しておりましたが、歌唱指導のみなので4人で十分なので変更させていただきます。]

学校における事前指導

楽譜と歌唱/ダンスの参考ビデオを事前に音楽担当の先生に送ります。ワークショップの前までに数回練習をして頂きたいです。(練習時間の確保が難しい場合は、その楽譜とビデオリンクを生徒に共有し、各自で練習して頂くのも可能です。)

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

制作団体名	堺シティオペラ一般社団法人
公演団体名	堺シティオペラ一般社団法人

演目
オペラ「ヘンゼルとグレーテル」全3幕日本語上演 原作:グリム童話 作曲:E. フンパーティング 演出:坂口茉里 振付:篠塚瑞桜 指揮:宮崎優也 ピアノ:掛川歩美

派遣者数
出演者・音楽スタッフ 11名 舞台スタッフ 7名 合計 18名

タイムスケジュール (標準)
[標準 90分の場合] 13:00-13:20 挨拶・歌とダンスの復習 13:20-14:10 公演 14:10-14:20 質問コーナー 14:20-14:30 校歌斉唱・挨拶

実施校への協力依頼人員
特になし

演目解説
本来はドイツ語で歌われる歌詞を日本語で歌い、上演時間を休憩無しの50分ほどに縮小しています。また公演全てを歌で行うのではなく、司会者が優しくフレンドリーに語りかけるようにオペラで起こっている事やこれから起こる、これから起こるドラマを解説します。歌と司会者を交互に入れる事により子ども達の集中力を保ちポジティブな鑑賞環境を作り、プロのオペラ歌手による歌唱と演技を紹介することが出来ます。また、本来であればヨーロッパが物語の舞台であり、登場する悪役の魔女は西洋の盲目の老婆とされます。しかし、より子どもたちに親近感を持ってもらうため、また魔女の2つの性格を明確に描写するために、江戸時代からの歴史を持つ京舞篠塚流の篠

塚瑞桜の所作指導による男振り と女振りの二面性を持った堺シティオペラオリジナルの和物の魔女を登場させます。オペラと言う 異文化の演目の中に敢えて日本文化のエッセンスを入れる事により、日本文化と西洋文化の共存、そして共に新しい文化を創っていく姿勢を紹介していきます。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

専門的なトレーニングを積んでいない子ども達でも気兼ねなく“歌”と“ダンス”を通してオペラ公演に参加していただきます。オペラ終盤の魔女によってお菓子にされていた子ども達の役で、魔法が解けて目覚めるシーンで歌唱とダンスをしていただきます。等身大の役なので、難しい演技や歌唱を求められる事はなく、事前のワークショップを通して歌とダンスを覚えていただき、当日の舞台に於いて発表していただく形になります。

児童生徒とのふれあい

公演の 3 幕に鑑賞だけをする生徒がその場で歌とダンスをする場面を設けています。公演をする前にその歌唱とダンスを練習して、出演者との親近感を深めます。また、公演終了後に質問コーナーを設け鑑賞したオペラについてや職業としてのオペラ歌手についての質問を受け付けます。